

自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 元 年 10 月 15 日

【事業所概要【事業所記入】】

事業所番号	3474400375		
法人名	有限会社 かがやき		
事業所名	かがやきホーム新湯野		
所在地	広島県福山市神辺町大字新湯野19番地1		
	電話番号	084-963-6555	
自己評価作成日	令和 元年 9 月 8 日	評価結果市町村受理日	令和 元 年 10 月 28 日

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価機関概要【評価機関記入】】

評価機関名	一般社団法人 みらい
所在地	広島県福山市山手町1020番地3
訪問調査日	令和 元 年 9 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

<p>天然の木造、土壁の和風作りで吹き抜けの天窓があり、明るい平屋建てのホームで、不快な臭いが無く、気持ちよく、落ち着ける雰囲気の中で生活が出来、各居室にはトイレと洗面所を設置しているので、他の入居者に気兼ねなく自室で排泄、処理が出来ており、いつも清潔で快適に過ごして頂いている。家族の面会や行事参加も多く、家族との信頼関係も構築出来ており、地域住民、子供や有志、ボランティア、保育所との交流も盛んで、行事等にも気持ち良く協力して下さる。資格取得や勤務年数の長い職員が大半を占めており、向上心を持って、常に入居者本位のケアに当たっている。入居者の異変にも早期発見出来、対応が行われ、医療面でも主治医との信頼関係が厚く、重度に成られても主治医、家族、ホームとの連携を密にし、最期まで安心して穏やかに過ごして頂いている。どんな状態に成られても尊厳を守り、一人ひとりの自尊心やプライドを傷つけないよう、最期までかがやいた人生が送って頂けるケアを行っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>近隣には大型スーパーや商店等があり、便利な場所である。保育所も近く、行事等には参加し、園児との触れ合いで元気ももらっている。又、小学生の下校の見守り隊にも参加し、地域との関わり等を大切にされ、地域の一員として地域住民との交流を積極的にされている。今では民生委員や老人会長との信頼関係も築かれ、色んな場面で声かけしてもらっている。又、運営推進会議も充実し、立場の違う方々の多くの意見や助言等が得られ有意義な会議となっている。ケアに関しては、利用者との会話を大切にその人の思いに耳を傾け、個々を尊重し、自分らしく、一日一日を大切に安心して過ごしてもらう様全職員が一丸となり取り組まれている。家族との信頼関係も充実し、行事等には沢山の家族が参加され、利用者と共に楽しまれ家族との絆を絶やさない支援を心掛けている。研修も外部研修には積極的に参加し、それを基に内部研修を行い、個々のスキルアップに繋げられ、介護技術向上に努められている。食事に関しても誤嚥を防ぐため、椅子での姿勢を重要とし、クッション等でその人に合わせた工夫をされ、安全面に配慮した細やかな支援をされている。医療面では、通院支援は全面的に事業所が対応し、協力医療機関との連携も密に図られ、24時間いつでも対応や相談ができる体制が構築されていて、安心である。純和風の建物の中で木の香りや天窓からの明るい陽射しを受けながら穏やかに落ちついて、過ごせる環境である。今では地域に根づき信頼度の高い安心できる事業所となっている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝入居者と一緒に唱和して全職員共有している。常に理念を念頭に置き、入居者のケアに活かせるよう全職員周知し、実践に繋げている。	玄関の見え易い場所に掲示していると共に毎朝、利用者と共に唱和され、反省を含め再認識しながら、実践に繋げている。理念に沿ったケアができる様、周知されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学生の見守り隊に参加して、民生委員や老人会の方、地域の方達との交流を図り、子どもさん達ともふれあいを大切にしている。	小学生の下校時の見守り隊に参加、近隣の保育所の行事等、又老人会主催のカフェへ参加する等、色んな場面に出向き、沢山の方々との交流をされている。民生委員の協力が大であり畑を提供してもらい時期の収穫を楽しまれていると共に日々地域の一員として密に交流が出来ている。情報も多く得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム長がキャラバンメイトや見守り支援員インストラクターとして、副ホーム長もキャラバンメイトやオレンジアドバイザーとして地域の人々や老人会、民生委員の役員の方々、入居者家族の相談やアドバイスをしない活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月の運営推進会議に入居者家族や民生委員、老人会長、地域住民、包括支援センター職員、市職員等の参加で入居者、職員の状況や支援、行事等の報告を行い、職員に会議で出た意見を申し送り時に報告して、サービスの向上に活かしている。	家族、地域住民、民生委員、老人会長、行政や包括職員等の参加により、現状を事細かく報告し、立場の違う方々の多くの意見や情報が得られ、サービスに活かしている。議題を決めて行ったり、勉強会となる事もある。毎回井戸端会議の様な雰囲気でも和やかな、また、有意義な会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの情報をメールで受信している。運営推進会議に参加して頂いた時にも、事業所の取り組みを伝えており、担当者にも情報やアドバイスを頂ける関係作りが出来ている。	運営推進会議への参加があり、その中で現状や取り組み等は把握してもらっている。疑問点や相談事項があればその場で相談する事もあり、気軽に相談出来、協力関係は築かれている。包括主催の地域連絡会に参加し、包括との連携も取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は7:00から20:00まで、玄関内戸は9:00から17:00までは施錠しない。研修に参加して、研修報告をし、職員に周知している。3か月ごとに身体拘束廃止委員会と、年2回職員に周知して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会立ち上げ、定期的に委員会を持つと共に外部研修や内部研修を行い、全職員が正しく理解する様周知している。見守りを重視し、動きを制止せず、要因の把握に努め、拘束をしないケアに取り組まれ、玄関の施錠含め拘束はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加して、研修報告をしたり、虐待等のニュース等で情報が入った時にも申し送りで報告をして、全員虐待防止の意識を高め、見逃さない、しないケアで防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講演会や研修に参加して、制度に対する理解を高め、必要な方へのアドバイスや相談に乗り、活用出来るよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時等に不安や疑問点を尋ねて、安心して生活して頂けるケアや改定時にも不安を持たれない様十分に説明を行い、理解や同意を得るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回の運営推進会議で入居者家族や地域の意見、要望を聴ける機会を設けており、会議での意見等を申し送り報告している。面会時や年行事に家族が参加して下さるので、その場面でも職員との意見交換も出来ており、要望等を聞き、運営に反映出来ている。	訪問時や行事等で現状を伝える中で何気ない会話から把握する事が多く、常にコミュニケーションを取りながら、要望や意見の聴取に努めている。それぞれの場面での意見等は反映させると共に職員にも周知している。運営推進会議の中でも聞く事もあり、個々に対応もしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送りノートを活用したり、個別面談の機会を設け、意見や思い等を聞き、運営に反映させている。	日々のケアの中で気付きがあればその都度聞いている。また、ミーティングや申し送り等でも聞く機会を設けている。連絡ノートに書いてもらったり、色々な場面で意見や提案が気軽にできる環境作りをしている。その中での意見や提案は反映させている。また、職員アンケートも実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績、勤務状況等を把握し評価しており、職員にも自己評価や目標を決めさせている。また、自分の行きたい研修に参加させて各自のスキルアップに繋げ、向上心を持って働き易い職場環境作りが行なわれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の力量等を把握しており、行きたい研修を聞き、一年間の研修計画を立てて、一人ひとりに合った研修の機会を与えている。研修報告書を書いて、ミーティングで発表し、現場で発揮出来る様トレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着のサービス事業所の連絡会に参加しており、他事業所との交流や議題についての意見交換等で、自施設の運営やサービスの質の向上への取り組み機会が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時や入所後は特に連絡を密にし、何でも話せる雰囲気や機会を設けて、本人や家族の思いを傾聴して、信頼関係を作り、安心して生活出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることや不安、要望等が何でも言える、聴ける雰囲気作り心掛けており、信頼関係が出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が望む事を傾聴して見極めて、要望に沿った支援が行われるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人ひとりに合ったお手伝いを、受身ではなく役割として、自分はホームで役に立っていると感じて頂きながら一緒に行い、労いや感謝の気持ちも伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には一緒にお茶を飲んだり、レクリエーションや行事、お誕生日に参加して頂き、一緒に食事をして同じ時間を過ごして頂いている。職員も家族とのコミュニケーションを大切にしながら気軽に面会に来て頂ける環境作りや雰囲気作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に面会に来て頂けるよう雰囲気作りに努め、家族や友人の面会時は居室やリビングでお茶を飲みながら談話されている。家族との外出や外泊の協力を得ながら、今まで培った関係が途切れないよう努めている。	親戚、家族等の訪問も多く、中には友人の訪問やお便りも届く、絵手紙のやり取りもされている。お正月には自宅に外泊したり日帰りされる方もいる。出来るだけ馴染みの人や場との関係が継続出来る様、柔軟な支援を心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に洗濯物を干したり、畳んだり、職員が間に入ってテレビを見ながら、入居者様同士が談話出来るようにしたり、入居者の出来る事を見つけ、レクリエーションに取り入れて、職員と入居者同士協力し合い支えながら作品作りが行なわれるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院や他施設に移られた入居者の面会に行ったり、近況報告を尋ねて、必要に応じて相談を受けながら、継続的に支援するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を傾聴出来る場を作り、把握し、本人の意向に沿えるよう努めている。困難な人には家族に尋ねて、本人本位の支援が出来るよう寄り添い関わりを持つよう努めている。	色々な場面での会話の中(個別対応、食事中)で把握したり、個々の生活歴やその時々表情、行動から判断し、思いをくみ取るように努めている。表出困難な方は家族の協力を得ながら、検討し、可能な限り意向に沿う様取り組まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしや生活環境等家族や本人に尋ねたり、入院先の病院や利用されていた施設などからも情報提供して頂き、職員全員情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックで身体状況や顔色、表情、食欲等で状態把握に努めている。申し送り健康状態を伝え、少しの変化にも気づく観察力が培われており、現状把握が出来ている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見を傾聴し、介護計画が作成されている。担当者が毎月モニタリングを行い、気づきを申し送り時やケア会議で、本人や家族の意向に見直しや継続かの支援を話し合い、入居者のその時の状態に即した介護計画が作成されている。	モニタリングや家族の本人の要望、医師の所見を基に職員間でニーズや課題について話し合い、その中の意見を反映させ担当者会議で検討し、本人本位の柔軟な計画を作成し、家族に説明され承諾も得ている。モニタリングは毎月、見直しは、半年毎となっている。担当者会議には利用者も参加。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護中の本人のしぐさや言葉、排泄等の日々の状態と時間を個人記録に記入している。出来ることに目を向け、出来ないところはお手伝いする支援をしている。気づきがあれば申し送りノートに記入しており、ケア介護や介護計画の見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の状況を把握しながら、状態変化に迅速に対応し、既存のサービスの可否を話し合い、その時々に応じて柔軟な支援を行うよう取り組んでいる。入居者家族の協力もあり、一人ひとりのニーズに合わせたサービスが行なわれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや有志、老人会、保育所等の訪問や行事に参加している。小学生下校見守り隊に参加して子供を見守り、地域の一人として認められ知って頂けており、地域の人々に支えられ、見守られながら楽しく生活が出来る。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時本人のかかりつけ医を尋ねて、希望ない時は協力病院をかかりつけ医にしている。代表とホーム長が受診支援を行っており、相談やアドバイスも頂け、休日受診や電話対応もして頂ける関係が築かれている。病気の状態によっては家族に相談して専門病院に紹介して頂いてい	希望に沿った対応をしている。協力医療機関での通院はすべて事業所が支援し、協力医療機関との密接なつながりも出来ていて、24時間、いつでも対応してもらえる体制となっていると共にいつでも相談出来る関係も構築されている。他科についても通院支援されている。結果等は都度家族に報告し共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックや、排泄チェック等いつでも違う状態変化に気づいた時は看護師に伝えて対応して貰っている。状態によっては受診を行う早期対応の支援が行われている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入居者の情報提供し、入院時の状況も家族や医療機関と確り連携を取っている。早期退院に向けた治療が行われるよう、主治医と看護師との連絡を密にし、退院時には、カンファレンスに参加させて頂き、入院時の情報提供もあり、関係作りが行なわれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、重度化した場合の対応に係る指針を説明し重度化についての同意書を頂いている。終末期には主治医より家族に説明され、終末医療やホームでの看取りの説明を行い同意書を得て、カンファレンスを行い、医師、看護師の協力の下、ホームで出来る事、本人や家族の希望等を話し合い、看取り計画を作成し、全員で支え合う支援に取り組んでいる。	利用開始時、指針を基に説明し、理解が得られている。主治医との連携も構築されている。状況変化が起きた場合は主治医から家族に説明されると共に家族に意思確認を行い、要望に沿い、家族、医師、看護師、全職員等で方針を共有し、チームで支援に取り組まれている。体験もされ、家族から労いの言葉を頂いている。看取り研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを元に、急変時や事故発生時に活かせるよう職員間で共有している。入院後の再発時の状態に対しても、かかりつけ医や看護師より予測される急変の際への対応方法も事前に確認し、全職員が周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の夜間と昼間想定火災訓練を地域住民や家族参加で行っている。構造や避難経路等も知って下っており、ホーム内には避難経路を掲示し、職員、家族の連絡網を配布している。地域住民の庭や駐車場を避難場所に提供して下されている。非常ベル119番への通報が連動している。災害訓練は、市の情報を元に行っている。	事業所の見取り図を掲示すると共に地域、家族、職員の連絡網も作成され、それぞれに配布し協力を得、年2回訓練を行っている。避難場所も地域の方の駐車場を提供してもらえる等、協力体制が構築されている。車椅子の使い方などの訓練も行っている。地震等の災害についての研修もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「～しましょうか」～でよろしいですか」等本人の自己決定を引き出せるような声掛けを行っており、入浴、脱衣、排泄時等でプライバシーの確保に努めている。研修参加を行い、常に接遇に心掛けて、一人ひとりを尊重し、尊厳にも配慮した対応が行なわれている。	個々の尊厳を大切に支援を心掛けている。全職員がプライバシーに関する意識を維持し、個々に合わせた声かけ、対応をする様、周知していると共に個人情報管理、職員の守秘義務、倫理規定等の徹底もしている。馴れ合いになっても節度ある対応をするよう努めている。また、接遇に関する研修も実例を基に実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を伺うことや、困難な入居者には家族の意見を傾聴して、本人の希望に添えるよう選択肢を絞り、自己決定が出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースでケアするのではなく、その日の心身の状況、体調の状態を把握し、本人のペースを守りながら、一人ひとりが活き活きと生活出来るよう支援している。また、趣味や希望をレクリエーションに取り入れたり、地域活動に参加している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧や整髪、着る服等ご自分で身だしなみを整えて頂くよう声掛けを行なっている。定期的に爪きりや散髪、受診時の身だしなみや男性は髭剃りにも気をつけて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れて、その人に合った食事形態にして食べ易くし、全摂取に心掛けている。野菜の皮むぎや胡麻すり、味見、お絞巻き、食後の下膳、テーブル拭き等、入居者の個々の残存機能の出来る役割分担をして、その人の負担にならないよう一緒に片付け等を行なっている。	旬の食材を取り入れ、個々に合わせた形態で、盛り付けを目で楽しみ、職員と共にテーブルを囲み同じ物を食べながら、食を促す声かけや支援され楽しみの時間となっている。食前食後の挨拶も全員で行い、食事誤嚥を防ぐ姿勢の工夫(その人に合わせたクッション等を)をしている。力量により、テーブル拭きや下膳等をしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康チェック表にバイタルや食事量、水分量残り物等記入して、入居者の体調状況も個人記録に記入して職員全員で把握している。水分を取ろうとしない人には、飲める量を出して飲んで頂いたり、咽易い人にはトロミを付け、食事形態も考えてその人に合った支援が行われている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行なっている。自分で出来る人は声掛けや見守り、うがいやお口を開けられない人はハミングッドで口腔ケアを行い、夕食後は義歯を洗浄液に浸けて清潔保持に努めている。また、うがい時にうがい水を飲んで誤嚥しないよう確認も行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンや排泄量を把握し、日々の表情や行動に気をつけて、見守りや声掛けでトイレ誘導している。居室のトイレなので、排泄パターンが把握出来、他の入居者に気兼ねなくいつでも排泄が出来るので失敗の軽減に繋がっている。	居室に洗面台とトイレが完備されている為プライバシーが保たれゆっくり排泄できる。個々の排泄パターンや行動、表情等で声かけし、今までの習慣を活かすと共にトイレに座る事で機能維持にも繋がれると共に気持ち良く排泄できる様支援している。排便チェックもされ、不穩にならない様務めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	沢山の野菜やきのこ類、海藻類等を取り入れてバランス良いメニューに心掛け、一日の水分量を1300ccと目標を定め、こまめな摂取を行なっている。毎日の体操や歩行、レクリエーションでも体を動かすメニューを取り入れて、腸の蠕動運動を誘発して、自然排便が出来るよう努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間は決めているが、入浴拒否の時は時間をずらしたり、都度声掛けを行い、入浴の快適さを伝えている。それでも拒否がある時は日にちを変えている。仲の良い入居者同士と一緒に入れるよう声掛けを行なっている。排泄汚染時は時間関係なく入浴している。	週2~3回、時間帯は午後となっているが、その日の希望で柔軟に支援し、楽しみとなる様思いに沿った対応をしている。湯温や順番の希望にもその人に合わせている。拒否の方には無理強いをせず、様々な工夫をタイミングを見ながら清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れていない人は起床時をずらし、朝から傾眠状態が続く人は昼食まで休んだり、温度調節にも気遣い、午睡も取り入れて体力温存に努めている。居室の清掃や定期的にベッドのマットや布団干し、シーツ交換を行い、いつも気持ち良く眠られるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病状を把握した上で全職員に薬の効能や副作用が分かるように個人記録に処方箋を付けている。服薬追加や変更時には症状変化の報告をしている。服薬時は他の職員に分かるよう日付と名前を読み上げ、誤薬や飲み忘れの防止が行なわれている。また、飲み終えたかの		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションで歌やトランプ、昭和カルタ、折り紙やちぎり絵の制作等一人ひとりの出来るところをお手伝いや寄り添って行なっている。家事で出来るお手伝いは役割として分担して一緒にいき、感謝や労いの言葉を掛けている。家庭菜園で野菜の収穫もして頂き、気分転換が図		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には行なわれていないが、小学生の下校見守り隊や家庭菜園の野菜の収穫や花壇を見に出たり、近所の保育所の行事参加やホームの外周散歩に出かけて気分転換をしている。家族との外食や外泊、面会時外周散歩の協力がある。家族参加でお花見や藤棚で昼食やドライブ等外に出かける機会を作っている。	近隣の保育所の行事や小学生の下校時の見守り等に参加している。四季の外出(お花見、藤棚)は家族と共に出かけられ、五感刺激や楽しみごと、気晴らしの支援をしている。また、菜園に出かけ収穫を楽しまれたり散歩に出かける等出来るだけ外気に触れる機会を多く持つよう取り組まれている。家族と共に外食される方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことの大切さは分かっているが、仕舞い忘れて物盗られになると、他の入居者や職員への不信感が出て、ホームでの楽しい生活が出来なくなるので、家族と話し合い、所持して頂かない様になっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けてと言われた時は電話をしてお話をしたり、季節ごとの行事には折り紙を貼った案内状や年賀状を書いてやり取りをしている。姉妹や友人との絵手紙のやり取りも行い、お互い楽しみにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは吹き抜けで天窓があり、明るく開放感がある。木造、土壁作りで居室の清掃も行き届いており、不快な臭いも無く、廊下にはガラス瓦で自然の光が入り、温もりのある建物である。玄関前には季節のお花や野菜、夏にはゴーヤの緑のカーテンを作り、季節感を味わいながら収穫を楽しんでいる。玄関には行事時の家族との写真を飾ったり、リビングにも季節の制作物を飾っている。	玄関には家族との写真、季節を感じるお花もある。和風建築で木のぬくもりが感じら、吹き抜けの高い天窓から、陽射しも差し込み明るく開放感のある落ち着いた廊下、リビングである。居室周りはウッドデッキとなっていて、機能維持の為、歩かれる方もいる。リビングの壁には行事の写真やちぎり絵等が飾れている。また、食事準備の音や匂いが五感刺激となり家庭的である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	二つのユニットが自由に行き来出来、気の合った人と話をしたり、テレビを見たり音楽を聴いている。寝転んだり、足を伸ばせる和室や過ごし易い季節にはウッドデッキを歩いたり日向ぼっこをしながら談話している。本人の居心地の良い好きな場所で過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものを配置したり、家族の写真や制作物を飾り、居心地良く過ごせる居室にしている。居室にトイレと洗面所を設置しているのので、他の入居者に気兼ねなく排泄出来る配慮もしている。	居室ドアには、花の名前で間違いのない工夫をしている。全居室に洗面台やトイレが設置され、プライバシーも保たれ清潔感のある居室である。思い出の写真や馴染みのタンスもあり、また、作成された押し花、ちぎり絵も飾られ、今までの生活環境とのギャップのない工夫をされ、穏やかに過ごせる環境作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで廊下や居室に手摺を付けており、廊下の幅も十分あるので車椅子の人でも安心して移動出来、歩行器使用の入居者も安心して歩行が出来る。居室に花や木の名前を取り入れて、自分の部屋だと分かるようにし、トイレも分かるように張り出している。		

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

項目		取り組みの成果(該当するものに○印)		項目		取り組みの成果(該当するものに○印)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼすべての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼすべての家族と
			②利用者の2/3くらいの				②家族の2/3くらいと
			③利用者の1/3くらいの				③家族の1/3くらいと
			④ほとんど掴んでいない				④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に一度程度ある				②数日に1回
			③たまにある			○	③たまに
			④ほとんどない				④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②利用者の2/3くらいが				②少しずつ増えている
			③利用者の1/3くらいが				③あまり増えていない
			④ほとんどない				④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている	○	①ほぼすべての利用者が	66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②利用者の2/3くらいが				②職員の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③職員の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
60	利用者は戸外の行きたい所へでかけている		①ほぼすべての利用者が	67	職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが				②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが				③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼすべての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②利用者の2/3くらいが				②家族等の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼすべての利用者が				
			②利用者の2/3くらいが				
			③利用者の1/3くらいが				
			④ほとんどない				

(別紙4(2))

事業所名: かがやきホーム新湯野

目標達成計画

作成日: 令和 元年 10月 27日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】				
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容 目標達成に要する期間
1	27	介護中の本人の状況、状態等 記録を書いているが、しぐさや言葉等の反応が簡素で、もう少し詳しく記入して欲しい。	一人ひとりの表情、言葉等を詳しく記録に残す。	介助中や生活の場面で状態や時間は書いているが、しぐさや反応返答等詳しく記入していないので、本人の情報把握を共有。 11月1日から3ヶ月間
2	38	忙しい時は、職員のペースで行う事がある。職員一人ひとりが一呼吸をするよう心掛け、心に余裕を持つ。	入居者のペースに合わせたケアに取り組む。	業務の忙しさで入居者に目を向ける余裕がない時があるが、ちょっと間を空け一呼吸することで周りを見る余裕の心を養う。 11月1日から3ヶ月間
3				
4				
5				

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。